

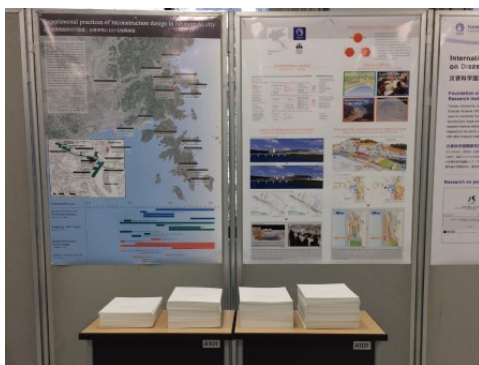
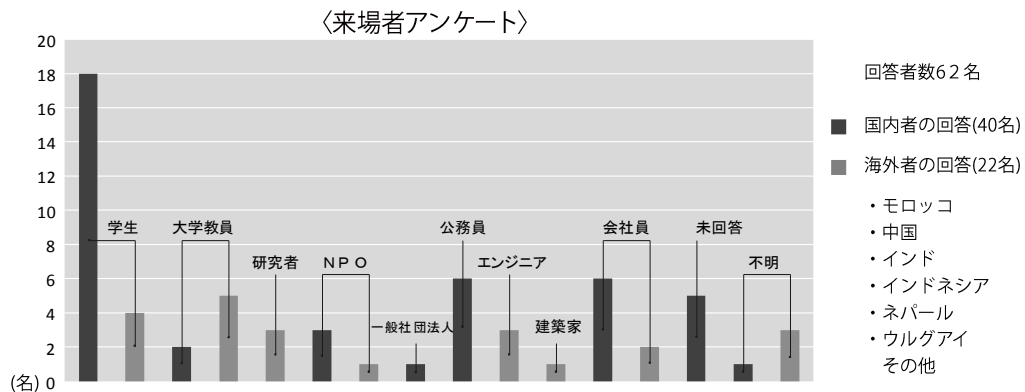
第3回国連防災世界会議パブリックフォーラムに出展しました (2015/3/14-18)

テーマ：Experimental practices of reconstruction design in Ishinomaki city・災害復興実践学の可能性：石巻市等における復興実践
場所：東北大学川内北キャンパスA棟

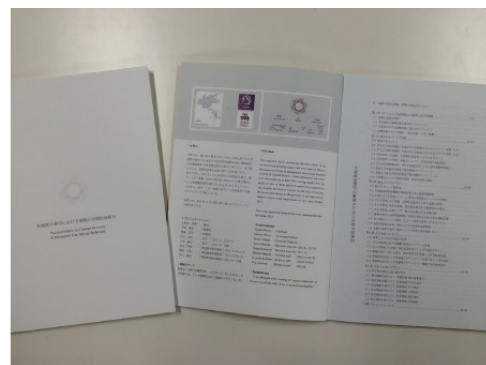
情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野の小野田泰明 教授を中心とするチームでは、東北大学と石巻市の包括協定に基づいて、発災以来4年に渡って石巻市の復興計画の検討、策定、実装を行ってきており現在も継続して活動をしています。パブリックフォーラムの展示において、その活動についてポスターと報告書にて紹介しました。このプロジェクトは、建築・土木・都市の専門家のコラボレーションとしての支援をしており、平野勝也 准教授、姥浦道生 准教授、小林徹平 助手、今村雄紀 特別教育研究教員ら（以上、情報管理・社会連携部門 災害復興実践学分野）が参画しています。

本展示には、モロッコ、中国、インド、インドネシア、ネパール、ウルグアイなど複数の国から、また業種においても大学職員、学生、NPO、行政職員、会社員といった様々な専門分野の方々に来場して頂きました。（来場者アンケートより）

東日本大震災への復興計画策定支援に関する実践的研究は、国内のみならず、また多様な業種の方々にも関心を頂いていることを改めて実感し、来年度以降の研究活動をより一層充実させていきたいと考えております。



展示風景



これまでの活動をまとめた報告書

文責：小野田泰明（情報管理・社会連携部門）